

Title	『徒然草』第七段と『莊子』再考：「夏の蟬」をめぐって
Author(s)	陳, 秉珊
Citation	詞林. 2005, 38, p. 44-56
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67541
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

▽詞林38号に以下の誤りがございました。お手数でございますが、お改めください。

頁及び行数

誤

2	頁下3	行目	先学に拠って
2	頁下5	行目	「冷泉家」
8	頁下6	行目	片桐(等の述べる)、
12	頁下15	行目	一九四四年三月
14	頁上6	行目	古系図のうち、
14	頁上26	行目	(16)「国冬本
24	頁下1	行目	果たしている。『大鏡』
26	頁下21	行目	呉竹のわが世はことになりぬとも
55	頁上15	行目	全釈漢文大系(集英社)

正

			先学によって
			「冷泉家本」
			削除
			一九八六年三月
			古系図のうち、
			(16)拙稿「国冬本
			果たしている『大鏡』
			呉竹のわが世はことになりぬとも
			全釈漢文大系(集英社)をもとに、
			私に訂した部分がある。訓読は、
			『莊子』(中央公論新社)を参照し
			つつ、私に読んだ。